# 指銃

【概要】
宝くじを当てた夫婦の寝室に強盗B人が押しよる。
強盗の武器は拳銃や刃物などではなく二本の指であり、指先から光線のようなものが出て攻撃が出来るらしい。
しかし、その光線を受けるにはシステムのダウンロードが必要であったり少々の設定が必要。

【時間】
約5分

【出演】
■人数：4人
強盗A…横田
強盗B…河野
夫…坂巻
妻…小野島

【撮影場所】
■シーン数：1
寝室

【脚本】
①
　A――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――A
薄明かりの夜の寝室。
ベッドの上で夫婦が甘い雰囲気で抱き合っている。
「ウオ～～～～」などの奇声とともに寝室に二人の強盗が入ってくる。
　B――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――B
強盗A「動くな」
二人の強盗が寝室を包囲すると夫婦はベッドの上で驚く。
強盗B「絶対に動くなよ」
夫「は、はい。絶対に動きません」
強盗が強盗の武器は拳銃や刃物などではなく二本の指であることを夫が認識する。　A’
夫「（強盗を指差しながら）でも、その手は…」
強盗B「動くなと言っているだろ！」
夫が腕を引っ込める。
強盗A「お前は先週の金曜日、宝くじで3億円当たったらしいじゃないか。」
夫がたじろぐ。
ベッドの横に金庫があることを強盗達が認識する。
強盗A「今日はその宝くじの賞金を奪いにきた」
強盗B「殺されたくなかったらその金庫をよこせ！金庫をよこさないと撃つぞ！」　B’
夫は全く動じない。
夫「で、でも、何ですか、その手は」
強盗A「（右手の二本指を指して）これ？これは指銃だよ」
夫「指銃？」

Copyright (C) 2012 CARROT Inc. All Rights Reserved.

強盗B「指の銃だよ！指銃はな、タマを撃つ奴はピストルを持ち歩く必要が無くなるし、タマを撃たれる奴は鉛が体内に残ることは無いし、読書家にとっては休日の優雅な時間が発砲音で台無しになることがないし。撃つ側も撃たれる側も読書家にも優しいwin-win-winの関係でなりたつ次世代の拳銃なんだよ。」
夫「（余り信じない様子で）え？」
強盗A「お前、まさか指銃を知らないんじゃないか？二年前にNASAから発表されただろ」
夫「（妻に向かって）指銃って知っている？」
妻「全然知らない」
夫は全く動じず、少し立ち上がって強盗に向かおうとする。
強盗A「来るな。来るなよ。お前がそうやって、見くびっていると三本指にするぞ。三本指にするぞ、するぞ、したからな。（おどしながら三本指にする）」
C’
強盗B「二本指は葉っぱを揺らす程度の威力だけど、三本指は一発でゾウ5頭がこっぱみじんになる破壊力だからな。」
強盗A「ゾウ5頭分は人間5人分だ」

②
夫「そんな指なんかで撃てるの？」
強盗A「お前は全く信用していないようだな。ならこれで信用するか」
強盗Aが強盗Bに向けて銃口を向ける。強盗Bが異様に怖がる。
強盗A「分かっただろ？」
夫「あんまり分からないな」
強盗A「もういい面倒くさい。その顔面に撃ってやる。」
強盗Aが夫に指銃を撃とうと右手を左手で叩く（トリガーを弾く）。
しかし、全く効かない。
試しに強盗Bに撃ったら効いて、強盗Bは左手を負傷する。
D’

③
B――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――B
強盗A「え？なんでお前には効いて、あいつには効かないんだ」
強盗B「（指銃の取扱説明書を見ながら）ボス。指銃の取扱説明書によると、銃弾の受け手側は専用ドライバのインストールが必要みたいです。自分のパソコンにAdobe社のHPからダウンロードしないと指銃のダメージを受けることができないそうです」
強盗A「あ～。そうだった。俺らがインストールしたのはもう二年も前だから忘れていたな。じゃあ、こいつのパソコンにインストールしないとな。（夫に）おい、パソコンを出せ」
夫「（ベッド横からノートPCを持ち出して）パソコンならここにあります。」
強盗Bが夫の方に行きノートPCを操作する。
強盗Aは座って待っている。
強盗Bは「パスワードは？」「Adobeからのメールの受け取りはONにする？」などと夫に配慮しながらインストールと設定をする。

④
強盗A「設定は終わった。これでお前も指銃のダメージを受蹴ることになるぞ。撃たれたくなかったら金庫をよこせ」
夫「やっぱり、俺は強盗なんかに屈することはできない」
強盗B「殺されてもいいのか！」
強盗A「もう面倒くさいから。撃ち込んでやる。」

Copyright (C) 2012 CARROT Inc. All Rights Reserved.

強盗Aが夫に指銃を撃とうと右手を左手で叩く（トリガーを弾く）。
しかし、全く効かない。
試しに強盗Bに撃ったら効いて、強盗Bは右足を負傷する。

E’

⑤
　B――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――――B
強盗A「おかしいな。なんでお前に効いてあいつには効かないんだ」
強盗B「（指銃の取扱説明書を見ながら）ボス。見落としてました。指銃の取扱説明書によると、銃弾の受け手の人間は動物リテラシーが高くないと効かないそうです」
強盗A「動物リテラシー？」
強盗B「そうです。二年前、一緒に動物に関する知識を必死に丸暗記したじゃないですか。覚えてないですか？」
強盗A「そうだったかもな。（早口で動物の問題を出す）」
強盗B「（即答。早口で動物の問題を出す）」
強盗A「（即答）じゃあ、早く動物リテラシーを上げさせろ。」
強盗Bが夫の方に行き動物に関する知識を夫に教える。
強盗Aは座って待っている。

⑥
強盗A「動物リテラシーが上がったら。これでお前も指銃のダメージを受蹴ることになるぞ。金庫をよこせ」
夫「いやだ。警察に電話してやるからな」
強盗B「もういい。撃つぞ」
強盗Aが夫に指銃を撃とうと右手を左手で叩く（トリガーを弾く）。
しかし、全く効かない。
試しに強盗Bに撃ったら効いて、強盗Bは死亡する。

⑧
強盗A「なんで効かないんだよ。こいつは本当に使えないな」
強盗Aが死亡して倒れている強盗Bをたたいて、指銃の取扱説明書を取り上げて、見る。
強盗A「そうか。指銃のダメージを受けるには、専用のハットと専用の蝶ネクタイが必要だったんだ。完全に忘れていた。」
強盗Aが強盗Bのハットと蝶ネクタイを取り外し、妻に被せる。
また、自分のハットと蝶ネクタイを夫に被せようとしたらところで、夫が「動くな」と本物のピストルを強盗Aに向ける。

F’

強盗Aは三本指のまま両手を挙げる。
夫「絶対に動くなよ。動いたら撃つからな。指銃を離せ。」
強盗Aが右手を三本指から二本指にする、と同時に左手を一本指にする。次に右手を一本指にする、と同時に左手を二本指にする。そして、右手をグーにする、と同時に左手を三本指にする。

G’

夫「よし。OKだ。左手の指銃も離せ」
強盗Aが強盗Aが左手を三本指から二本指にする、と同時に右手を一本指にする。

H’

夫「指銃を離せと言っているだろ！もういい。撃ってやる！」
夫が強盗Aにピストルを撃つ。しかし強盗Aには効かない。
強盗A「ふふふ。市販のピストルは魚リテラシーの低い私には効かないんだよ。死んでしまえ」
強盗Aが夫と妻に指銃を撃って、夫婦が死亡。

Copyright (C) 2012 CARROT Inc. All Rights Reserved.

⑨
強盗A「まあ、少々てこずったが、この3億円はもらっていくからな」
強盗Aが袋に札束（または小切手）を詰めようとする。
しかし札束には「このお金は道徳リテラシーが高くないと使えません。」と書いてある。

I’

J’

Copyright (C) 2012 CARROT Inc. All Rights Reserved.